

グラブ浚渫船でのバイオディーゼル燃料の導入

バイオディーゼル燃料提供元：豊田通商株式会社/豊通エネルギー株式会社

～中部地区港湾整備事業では初めて～

株式会社小島組（本社：愛知県名古屋市港区、代表取締役社長：小島 智徳、以下「小島組」）は、港湾の浚渫作業における燃料消費に伴うCO₂排出量削減を目的に、2024年3月より、浚渫船の燃料に豊田通商株式会社/豊通エネルギー株式会社より提供されるバイオディーゼル燃料※¹（以下、バイオ燃料）を導入します。

国土交通省による『カーボンニュートラルの推進』に賛同する小島組の主体的な活動として、当社浚渫船「Hybrid 船 第381 良成丸」によるバイオ燃料を使用する稼働は、「国土交通省中部地方整備局四日市港湾事務所発注の令和5年度 四日市港霞ヶ浦北ふ頭地区岸壁(-14m)床掘工事(その3) (2024年3月14日～4月末)」で実施します。

作業船として、バイオ燃料の使用は中部地区の港湾整備事業では、初めてとなります。

バイオ燃料は既存の内燃機関や燃料インフラが使用可能であり、脱炭素社会に向けて作業船の改造が難しいと言われている港湾土木業界において、喫緊の現実的な対応策として有望視されています。使用するバイオ燃料(B24)は、100%廃食油を原料の一部として精製したもので、A重油に対し、廃食油由来の燃料を24%の割合で配合しています。廃食油を再利用することで廃棄物を削減し、循環型社会構築へも寄与します。

小島組は、国土交通省港湾局が創設した「みなとSDGsパートナー登録制度」※²に賛同・登録しており、小島組によるバイオ燃料を活用した脱炭素化への取組みは、SDGsの目標7“エネルギーをみんなに、そしてクリーンに”と目標13“気候変動に具体的な対策を”に対する取組みと合致します。また、脱炭素化への移行期の現実的な方策として、政府が進めるカーボンニュートラルレポート※³の形成推進にも貢献します。

※¹：バイオディーゼル燃料

植物を原料とする軽油代替燃料。植物が育つ過程でCO₂を吸収する為、バイオ燃料をCO₂排出量が多い重油の代わりに使用した分、CO₂排出を抑えることができる。

※²：みなとSDGsパートナー登録制度

登録する港湾関連企業等のSDGsに関わる社会活動を公表し、活動を促進することによって、港湾の持続可能な発展につなげる取組み。

※³：カーボンニュートラルレポート

「2050年カーボンニュートラル」等の政府目標の下、Co₂多排出産業が多く立地する臨海部において、港湾機能の高度化、新エネルギーの受入れ環境の整備などにより、脱炭素社会の実現に貢献する港湾。

【Hybrid 船 第381 良成丸】

船 体：67.0m×26.0m×5.0m（喫水2.7m）

起 重 機：SKK-1600GE

最大吊上荷重：160 t

バ ケ ッ ト：(標 準) 23.0m³

(ワイド) 40.0m³



【お問い合わせ先】 株式会社小島組 サステナビリティ推進委員会

TEL：052-691-7080